



とよ だ みつ はる
豊田光治

にほんきょうさんとうつしぎだん
日本共産党津市議団

事故の多い長谷山の産廃施設の再開を許すな

問 長谷山の中腹にある産廃施設は、1998年の操業開始以降、ダイオキシン基準オーバーや火災など重大な事故を8回も起こし、付近住民に大きな不安を与えている。平成24年9月に起きた火災では、火災から3ヶ月たっているが、原因は未だ確定していない。津市は公害防止協定の当事者として、住民の命と健康を守る立場から厳しい対応をとれ。

答 当該施設の火災事故は、平成13年以来、今回で2度目となる。本市としても地域の皆様に多大なる不安感を与えたことは、大変遺憾であると認識している。操業に関する許可や停止命令の権限を有する三重県と連携を図りながら、公害防止に関する協定に基づき、再発防止対策が十分確保されるよう、県に事業者を指導していただく。また、再操業をさせないようとの要望書が平成24年11月末に提出されたことから、その趣旨は、既に事業者及び三重県には伝えた。今後、本市としては、事業者と地元関係者との協議も予定されていることから、関係する地域の皆様全体の声をよくお聴きした上で、三重県と連携を図り、住民の立場から、法令の範囲内で事業者への指導を図っていく。

●その他の質疑・質問●

○養正地区に高齢者や地区住民が気軽に使える集会所の建設を
○高すぎるZTV地デジ契約料が家計を圧迫している。市の窓口で相談できる体制を
○東日本大震災復興支援を目的に、市主催で市民が気軽に参加できるバザー企画を



▲平成24年9月12日、火災で黒煙を上げる長谷山の産廃施設



かわ ぐち かず お
川口和雄

しみんくらぶ
市民クラブ

耐震補強が必要な久居市民会館の現状は

問 何百人もの観客を収容する久居市民会館、築35年が経過し、度重なる雨漏りがひどいため、天井がいつ崩落するか、又吊物及び照明器具等がいつ落下するかわからない。

このような危険な状況で十分な修繕も施さず、平然と使用料を徴収し開館しているが、大惨事に至っても不思議ではない。

安全性が担保できない施設は、ただちに閉館すべきである。

答 昭和52年建設の久居市民会館は、耐震補強が必要との判断がなされている。また、経年劣化による老朽化により、様々な支障が生じてきており、雨漏り、空調設備、給水管関係等の修繕等を行ってきた。また、舞台関係機器は、全て開館当時に設置したもので、交換部品もない状況である。このような状況が続くと開館し続けるのは難しいと考える。市民会館の建て替えは、旧久居市時代に計画され、現在、久居駅周辺地区のまちづくりビジョンとして、2つのプランを提案している。このいずれかのプランに基づいて建設していく事業計画を確定できる状況になれば、休館させていただく考えであったが、施設の安全性を第一に考え、早急に休館を前提に検討していきたい。

●その他の質疑・質問●

○市内各小中学校から教育委員会に報告されている「いじめ」件数は平成24年4月から10月末で58件と昨年度1年間の26件を半年余りで2倍強と大きく上回っているが学校現場はいじめられている子どもの救済を1日も早く教職員一丸となって取組み
○いじめゼロのスローガンを各小中学校に掲げ、撲滅キャンペーンを真剣に取組み など



▲危険がいっぱいの久居市民会館